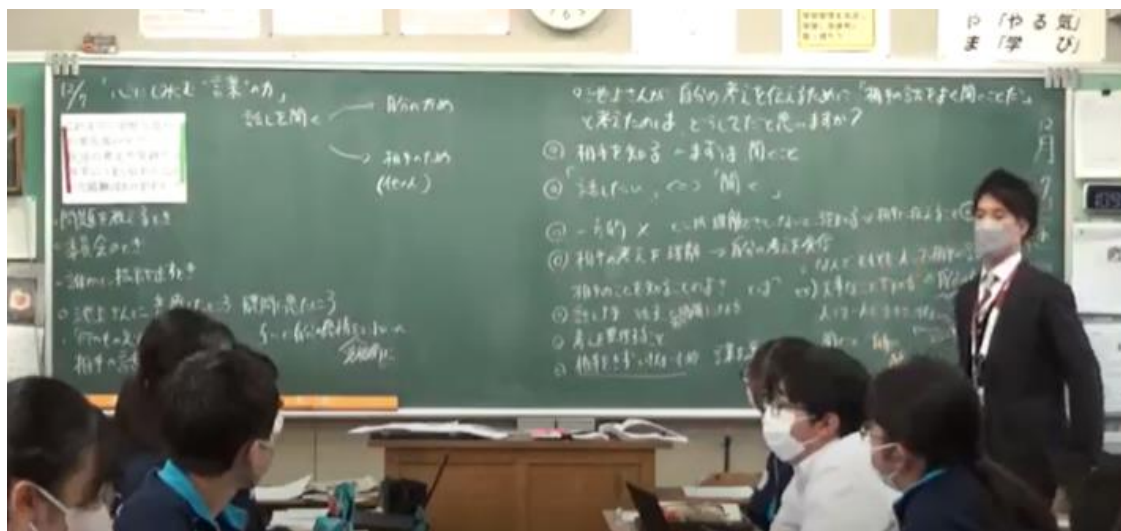


令和5年度 相模原市小・中学校等教育課程研究会提案資料

部会名 特別の教科 道徳

テーマ

道徳科の指導方法の工夫に関する研究
～関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発を通して～



【提案者】



所 属 校 相模原市立小山中学校

氏 名 大森 雅貴

【研究協力者】

所 属 校 相模原市立川尻小学校

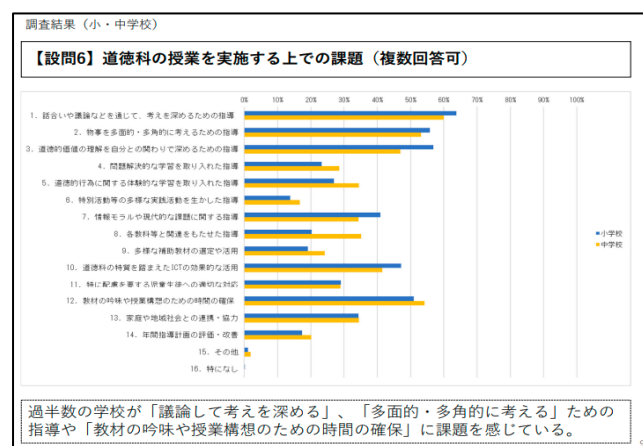
氏 名 村上 佑太

I はじめに

道徳科では、『学習指導要領解説特別の教科 道徳編』（2 頁）に、「多様な価値観の、時に対立がある場合を含めて、誠実にそれらの価値に向き合い、道徳としての問題を考え続ける姿勢こそ道徳教育で養うべき基本的資質である」との答申を踏まえ、『発達の段階に応じ、答えが一つではない道徳的な課題を一人一人の生徒が自分自身の問題と捉え、向き合う「考える道徳」、「議論する道徳」へと転換を図るものである。』と述べられている。

しかし一方で、『令和3年度 道徳教育実施状況調査（結果概要）』によると、「教材の吟味や授業構想」について課題が挙がっている。

また、『学習指導要領解説特別の教科 道徳編』（1 頁）に、「我が国の学校教育において道徳教育は、道徳の時間を要として学校の教育活動全体を通じて行うものとされてきた。」と述べられているが、同調査では、「特色ある教育活動や体験活動と関連させた道徳教育の実施」や「全体計画の評価・改善」についての課題も挙がっている。



（図1）『令和3年度道徳教育実施状況調査（結果概要）』

II 研究内容

自分自身の授業実践を振り返ってみると、指導書にある指導案を手掛かりにした授業に終始し、教材研究を十分に行えていなかったり、一単位時間の授業を成立させることばかりに、意識がとど

まったりしていた。また、学校祭や校外学習などの行事に道徳教育を関連させる意識を十分にもてていなかった。

こういった課題を解決するためには、内容項目間の関連を十分に考慮したり、各教科等や体験活動等との関連的指導を工夫したりすることが、極めて重要であると考えた。

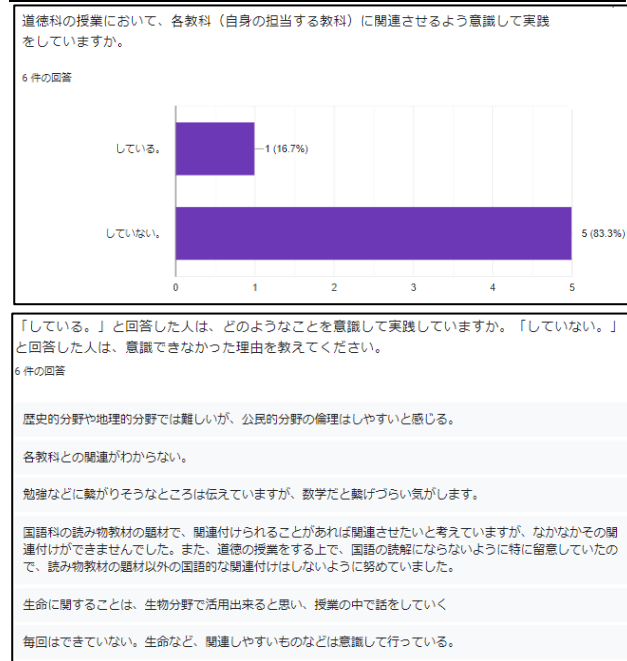
そこで、研究テーマを、「道徳科の指導方法の工夫に関する研究～関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発を通して～」と設定し、研究を行った。

III 研究実践

1 関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発に向けた準備①【先生方への意識調査】

同僚の先生方が関連的指導についてどのような意識をもっているのか調査を実施した。次にその結果を示す。（回答数：6名）

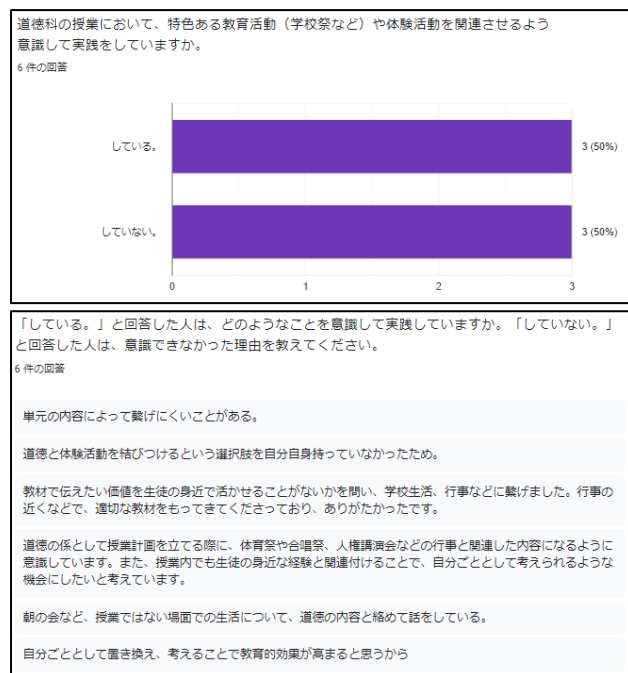
（1）自身の担当する教科との関連に対する意識



この結果から、「各教科と道徳科をどのように関連させるのかが分からない。」や「各教科等の指導内容によっては、道徳科を関連させにくい。」

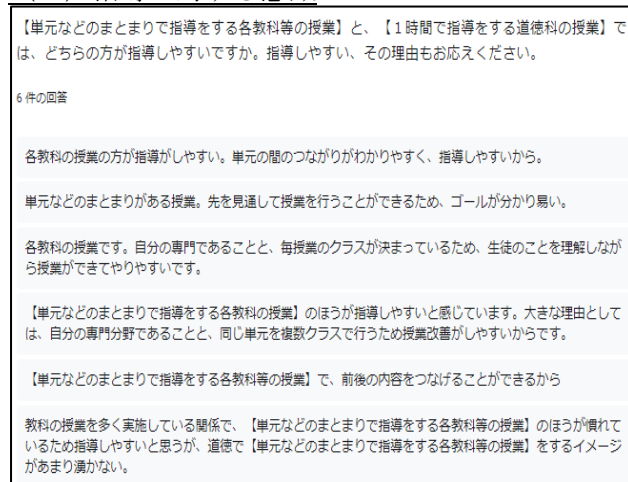
といった理由で、自身の担当する教科との関連について意識しづらいことが分かった。

(2) 特色ある教育活動等との関連に対する意識



この結果から、特色ある教育活動との関連については、関連しづらいと感じる先生はいたものの、自身の担当する教科との関連の結果と比較すると、意識しやすいことが分かった。

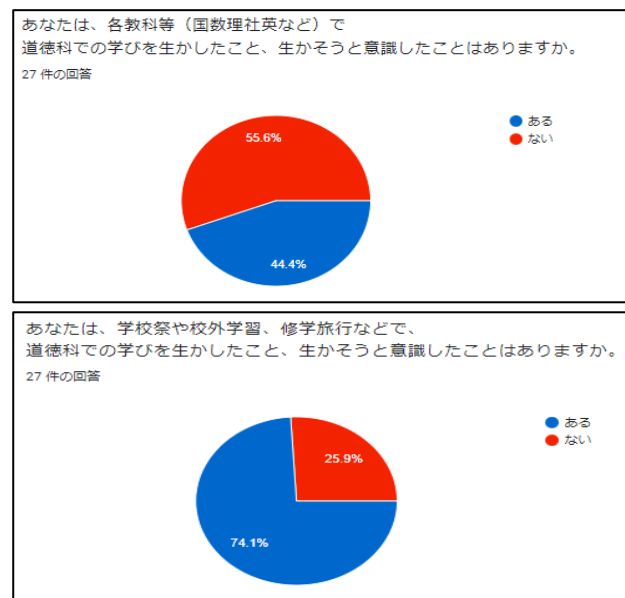
(3) 指導に対する意識



この結果から、単元のまとまりがある方が指導しやすいことが分かった。

2 関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発に向けた準備②【生徒への意識調査】

実際に道徳科の授業を受けている生徒は、道徳科での学びをどのように生かしたか、生かそうと意識したかを知るために調査を実施した。次にその結果を示す。（回答数：27名）



この結果から、生徒は各教科等よりも、特別活動の方が道徳科での学びを生かそうとする意識が高いことが分かった。

3 関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発に向けた準備③【予備実践（授業）】

2つの意識調査結果を踏まえ、特別活動と道徳科の関連を意識した授業を行うことで、生徒たちの道徳科での学びを生かそうとする意識が高まるのではないかと考え、次のように授業構想を行い、実践した。

○日 時：令和4年10月21日（金）4時間目

○学 級：第3学年1組（35名）

○主題名：人っていいなあー思いやりの連鎖
思いやり、感謝（B-6）

○教材名：「一冊の漫画雑誌」

（出典『新訂新しい道徳3』東京書籍）

○ねらい：思いやりと感謝の心の関連性について考えるを通して、思いやりの心を大切にしようとする心情を育む。

7 学習過程

	教師の働きかけ	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入	●先週の体育部門の様子を写真で振り返る ①リレーのバトンパス ②大縄の写真 ③話しかけてあげたいけど、そっとしている場面 ④線が消えているのを見つけて、自分からラインカーで線を描く。 ○これら4枚の写真に、共通していることって、何だろうか。	①:相手のことを思って、渡さないといけないよね。 ②:相手のことを思って、縄を回している。 ③:何もせずにそっとしておくことも優しさかな？ ④:相手のことを思って、自主的にやってくれているよね… →相手への思いやりかな？	△特別活動での行動を振り返り、本時の授業のねらいに近づけるように促す。 子どもたちの言葉でつなげる。
展開	「一冊の漫画雑誌」鑑読 ・本文の内容や登場人物の整理 ○教材に出てきた登場人物の姿から、どんな思いやりを見つけましたか。	・店主の塩川さん、常連の若者、子供たち ・登場人物の動きや考え方が分かる部分や、自分が思いやりの部分だと感じたところに線を引ながら読むように指示する。 ・生徒の返答に対して、どうしてそう思ったのかを聞く。	

中心発問 どうして、こんなに思いやりがあふれていたのだろうか。 補助発問 どういった思いが、子供たちによる募金箱設置につながったのか。 発問 これまでの自分の経験と照らし合わせながら、今日学んだことを書いてみましょう。		
【個人】で考える(5～7分)	・お金のため ・店主の塩川さんへの恩返し ・自分たちが何かをしてもらったから、次は自分たちが誰かのためにしたい。	評価の視点 これまでの自分の経験と照らし合わせながら、授業で学んだことを自分なりの考えでまとめているか。
終末	●授業の振り返りをする。 ・学習の内容を振り返ることで、思いやりと感謝の関係性に気づかせる。	

【予備実践学習過程（10月21日）】

この授業では、導入部分で令和4年10月15日（土）に行われた創光祭体育部門の様子を写真で提示した。その写真の行動から、相手に対してどのような思いや気持ちが共通しているのか生徒に投げかけた。生徒の反応として、次のような発言が挙がった。

生徒A：自分のためじゃなくて、みんなのために頑張ろう。

生徒B：創光祭を成功させよう。

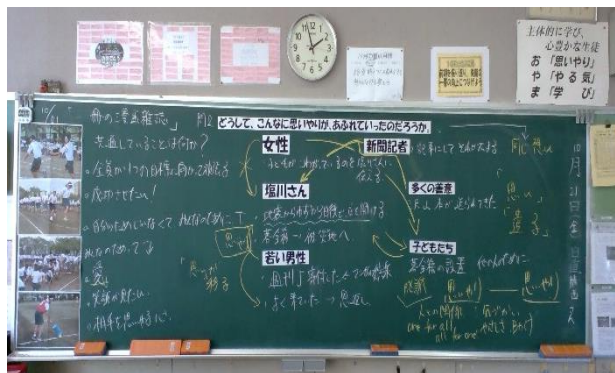
生徒から、「みんなのために」という言葉が出てきたので、「みんなのためにとってどんな気持ち

なの？」と生徒に問い返した。

生徒C：みんなを笑顔にしたいという心

生徒D：相手を思いやる心

導入部分での思考の流れをもって、教材を読めるように、「自分が相手を思いやっていると感じるところはどこか」という視点を与え、文章に線を引かせた。その後は、教材に出てきた登場人物の姿から、どんな思いやりを見つけたのか全員に問うた。その後、中心発問として、「どうして、こんなに思いやりがあふれていたのだろうか。」と生徒に投げかけ、最終的に「小さな思いやりが繋がっていくこと」に生徒たち自身が気づいた。



【予備実践板書（10月21日）】

生徒E：体育部門実行委員をされていて、仕事で忙しいときとか、多くの人が「手伝おうか。」と言ってくれたので、「思いやり」の心は持つだけではなく、行動することも大事ななと思いました。

生徒F：創光祭と関連づけてみると、終わった後にみんなで実行委員に色紙を書き、メッセージを見てみると、「ありがとう」や「楽しかった!」という言葉いっぱいだったので、これも思いやりの連鎖だなと思いました。思いやりが広がるっていいですね。

これらの生徒の振り返りから、『学習指導要領解説特別の教科 道徳編』(100 頁)にある「現代的な課題の扱い」に対応できるのではないかと考えた。

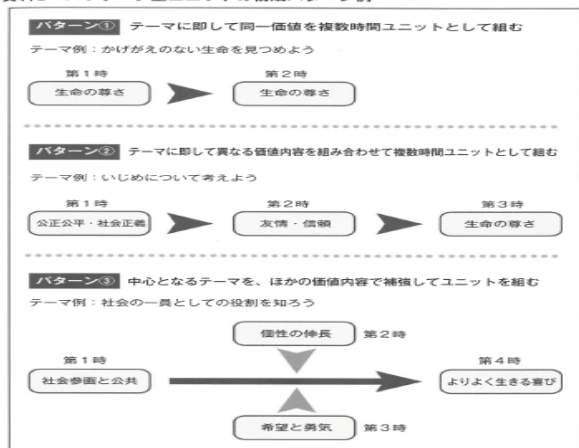
「特別活動などにおける学習と関連付け、それらの教育課題を主題とした教材を活用するなどして、様々な道徳的価値の視点で学習を深め、生徒自身がこれらの学習を発展させたりして、人として他者と共によりよく生きる上で大切なものとは何か、自分はどのように生きていくべきかなどについて、考えを深めていくことができるような取組が求められる。」と述べられている。特別活動と関連させて道徳科の指導方法を工夫するといった意識をもつだけで、授業の終末に、生徒達の振り返りがより充実したり、教師もねらいとする道徳的価値の軸を保ちながら自信をもって授業ができたりすると実感した。また、関連的指導をより有機的なものにするためには、意図的な計画が大切になることも分かった。

4 関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発に向けた取組

（1）ユニットの構想

下の図は、田沼氏（國學院大學教授）の「パッケージ型ユニットの構成パターン例」である。

資料3 パッケージ型ユニットの構成パターン例



【パッケージ型ユニットの構成パターン例】

パッケージ型ユニットとは、学習指導要領における、問題解決学習を生徒たちの「主体的・対話的で深い学び」を通して、生徒たちの「資質・能力」を育成していくために、田沼氏が考案したものである。私は、そのパッケージ型ユニットのパター

ン②という手法を用いて、生徒たちの心を育みたいと考えた。まず、ユニットを構成する際に教育計画書にある「道徳教育の全体計画」に立ち返ってみることにした。テーマを決める際に、その計画書内にある、「各学年の重点目標」に注目した。

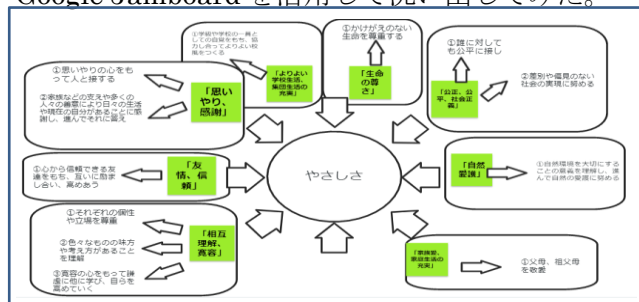


【令和4年度小山中学校道徳教育全体計画】

私が担当していた3学年の重点目標は「共に高め合う生徒を育てる。」であった。この目標の根底には、「自分や他者に対してのやさしさ」があると考え、「やさしさ」をテーマに一つのまとまり（以下から「ユニット」と表記する。）とした。

次に、「やさしさ」というテーマに結びつく内容項目には一体どのようなものがあるのかを

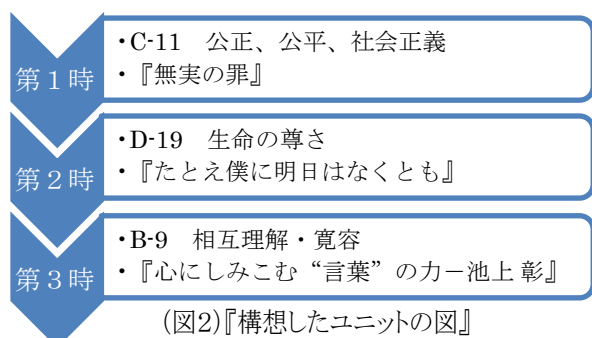
Google Jamboard を活用して洗い出してみた。



【テーマに結びつく内容項目の洗い出し】

最後に、テーマに関連する内容項目を扱う授業の教材について年間指導計画から探し、吟味した。

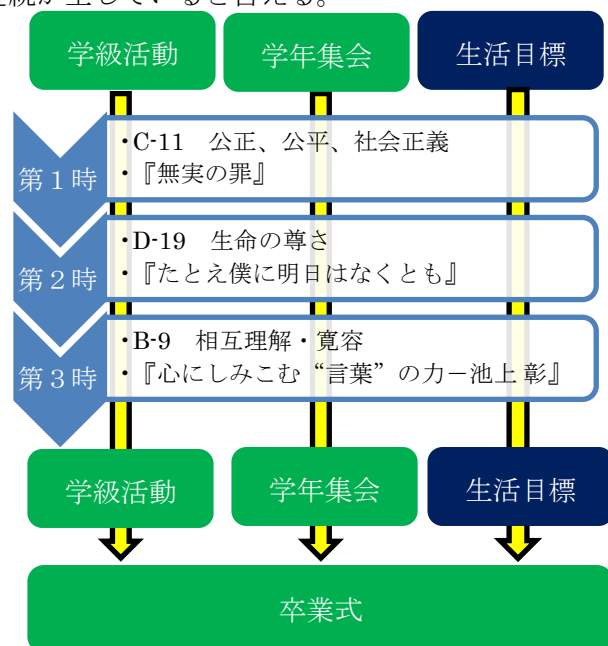
これらの過程を経て、以下のユニット（図2参照）を組むことで「やさしさ」について様々な内容項目からアプローチをすることとした。



(2) ユニットの実施時期

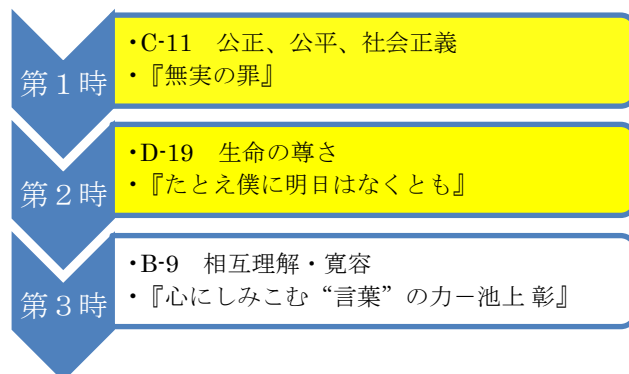
今回作成したユニットの実施時期は、図3のように特別活動等との関連を考え、11月とした。創光祭舞台部門、体育部門といった特別活動が一段落し、中学3年生ということもあり、生徒たちの意識の中に、「進路」に対する意識が徐々に高まってくる時期である。

そこで、ユニットのテーマである「やさしさ」を通した道徳教育を行うことで、生徒たちが、未来の進路に向かって、学級の仲間と共に高め合うことにつながるのではないかと考えたからである。『学習指導要領解説特別の教科 道徳編』(89 頁)に、「道徳科は、各教科、総合的な学習の時間及び特別活動など学校の教育活動全体を通じて行われる道徳教育の要としての役割を担っている。」と述べられている。つまり学級活動、学年集会といった特別活動は、道徳科の授業以外でも、学びの連続が生じていると言える。



(図3)『特別活動等と関連させたユニットの図』

5 関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発に向けた実践①



(1) ユニット第1時の授業

日 時: 令和4年11月14日(月) 1時間目

学 級: 第3学年1組(35名)

主題名: いじめのない世界へ

教材名: 「無実の罪」(C-11) 公正、公平、社会正義

(出典『新訂新しい道徳3』東京書籍)

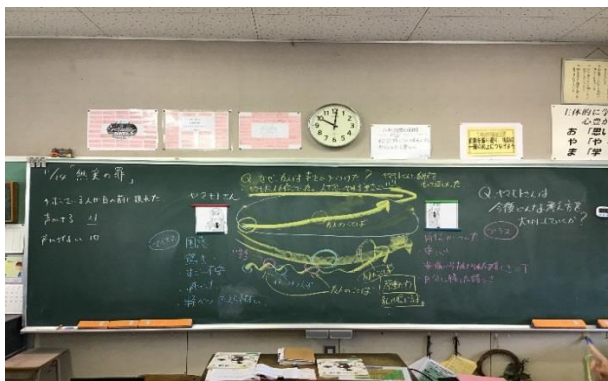
ねらい: 主人公ヤマモトさんと、ヤマモトさんを支える友人の言動を通して、誰に対しても公正、公平に接し、差別や偏見をなくそうとする態度を育てる。

7 学習過程		
教師の働きかけ	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 「見て見ぬふりをする。」 「避けて通る。」の例を挙げる。 例: 掃除や給食当番の人が、担当なのに、サボっている。自分は、リーダーだったとする。サボっている人があなたの目の前に現れた。 声かけようか?	声かけよう。 「いけないことだから、ルールに反する。」 声かけない。 「逆ギレされそう。」 「言わない方が身のため。」	・日常生活の中で、自分たちに関わりのある行動を振り返る。 ・子どもたちの言葉でつなげる。
展開 「無実の罪」読後 ・本文の内容や登場人物の整理	・ヤマモトさん、友人、同級生など	・登場人物の動きや考え方が気になる部分に線を引ながら読むよう指示する。
発問① 最初の方の主人公のヤマモトさんは、どんな心情だったか?		
	・なんで、こんな目に遭わなくちゃ... ・つらい/苦しい ・自分が何を言っても意味が無い	・生徒の返答に対して、どうしてそう思ったのかを聞く。
発問② 物語の最後、主人公ヤマモトさんは、どんな心情だったかな?		
	・自分に自信が持てている。 ・堂々としている。 ・自分の中に芯がある。	
中心発問 主人公のヤマモトさんの心情が変化していった原動力とは何か?		
【個人】 で考え、ワークシートにまとめる。(5~7分)	・友達のことばや支え ・自分自身を信じること	
発問③ ヤマモトさんは今後どんな考え方を大切にしていけるだろうか。		
	・堂々としていることの大切さ ・人の目を気にしない 自分をもつ	
終 ・授業の振り返りをする。 ・学習の内容を振り返ると共に、自身の公正、公平な態度を振り返る。		・本日の授業で、学んだことをしっかりと振り返らせる。

【ユニット第1時学習過程(11月14日)】

ユニット第1時の授業では、発問①、②で主人公の気持ちの変化に注目させ、中心発問として、心情の変化の原動力は何かを聞いた。

この教材は主人公の心情が、あるものごとをきっかけに変化していくタイプであったため、中心発問を、「主人公の心情が変化していった原動力は何か」とした。主人公のヤマモトさんは、やってもいないことを、やったと周囲から疑いの目で見られていた。その時の心情として、不安の気持ちや周囲から軽蔑されて、堪えられない気持ち等マイナスの心情であった。そのマイナスの心情からプラスの心情へと変わった原動力は何かを聞いた際に、生徒にマイナスからプラスへの心情への変化の仕方を矢印として、生徒自身に書いてもらった。



【ユニット第1時板書（11月14日）】

ある生徒は、矢印の変化の仕方に、「**マイナスの気持ち、プラスの気持ち**が交互に来るような変化がある。」という説明もしていた。主人公のヤマモトさんへの自我関与は深まっていたが、道徳的価値について、多面的、多角的に考えさせるために、補助発問として想定していた、「なぜ、ヤマモトさんの友人は、ヤマモトさんに声をかけつづけたのだろうか。」と発問した。ある生徒は、「**ヤマモトさんを信じていた。**」や「**人を思いやれるやさしい心**」といった考えを発表していた。

【生徒の振り返りの記述】

生徒G：何があっても、周りの目を気にせず、自分を信じて強く進んでいけばいいという考え方を大切にするとと思う。

生徒H：ヤマモトさんもその友人も、このままじゃいけないという気持ちを実行に移したのが良かったと思う。何かを変えるのに必要なのは現状を嘆くことではなく、変えようと動く勇氣なんだと思った。そして優しさには勇氣が必要だから誰かが親切にしてくれたら勇氣を出してくれたことを認識して、誠意のある対応をしたい。

（2）ユニット第2時の授業

日時：令和4年11月21日（月）1時間目
学級：第3学年1組（35名）

主題名：生きている今を見つめて（D-19）生命の尊さ
教材名：「たとえばくに明日はなくとも」

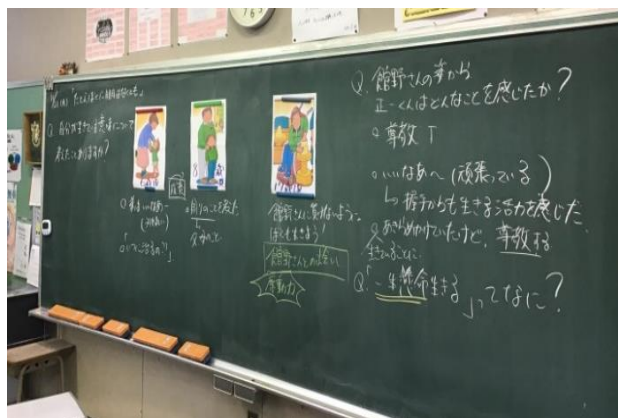
（出典『新訂新しい道徳3』東京書籍）

ねらい：生命軽視の軽はずみな言動を使う傾向が見られる実態を踏まえ、生命の大切さを単に説明するだけでなく、命を大切に生きようとする意欲を育む。

7 学習過程		
教師の働きかけ	発問と予想される生徒の反応	指導上の留意点
導入 自分が生きている意味について考えてみる。	発問① 自分が生きている意味について考えたことない。 ・分らない。	・日常生活の中で、自分たちにに関わりのある行動を振り返る。
展開 「たとえばくに明日はなくとも」読書 本文の内容や登場人物の整理	* 主人公の少年（正一君）	・登場人物の正一君の心情の変化に視点を置いて話を聞くように指示を出す。
発問① 主人公の正一君の心情が変化していった原動力は何か？		
・ 鶴野さんとの出会い		
中心発問 耳も口も不自由な鶴野さんの姿から、正一君はどんなことを感じたのかな？		
・ 一生懸命、生きていこう！ ・ 限られた時間の中で、自分にもできることは何かないかを考えよう！ ・ 鶴野さんより、自分の方がまだまだ頑張れるのに、何をよくよしているんだ。		
補助発問① <問い返し> じゃあ、鶴野さんに会った正一君は一生懸命ではなかったってことかな？		
・ それは違うよ、先生！「ぼく、ひとりでもできるよ！」って歯を食いしばって頑張っていたときもあったじゃん。 ・ 肉体にむちを打ちながら、せつせと何かを見つけてようとしているように見えた場面もあったじゃん。		
補助発問② <問い返し> 一生懸命生きるってどういうこと？		
・ 後悔の無いように生きること。 ・ 自分の命を大切に生きること。 ⇒ 自分への「やさしさ」につながる？！		
発問② 今回の教材を通して、「自分が生きている意味」についてどんなことを考えましたか？		
【個人】で考え、ワークシートにまとめる。（5～7分）		
終末	・ 授業の振り返りをする。 ・ 学習の内容を振り返ると共に、自身の命を大切に生きようとする心の在り方を振り返る。	・ 本日の授業で、学んだことをしっかりと振り返らせる。

【ユニット第2時学習過程（11月21日）】

ユニット第2時の授業では、主人公の正一君の心情の変化に注目した発問から展開した。その後、「耳も口も不自由な舘野さんの姿から、正一君はどんなことを感じたのか。」という発問には、生徒から、「**尊敬する。**」といった考えが出たものの、生徒たち自身で考えを深めることが難しいと捉えた。そこで、補助発問①で、「舘野さんとお会う前の正一君は一生懸命生きていなかったってことかな？」と投げかけると、「**いや、それは違うよ。**」と教師に向けた反論があった。「**でも、一生懸命に生きるってどういうことだろう。**」と別の生徒のつぶやきを聞いた。補助発問として想定していた、「一生懸命生きるってどういうこと??」という発問を全体に問い返してみたところ、自分なりの生命の尊さについて考えを深めることに繋がった。



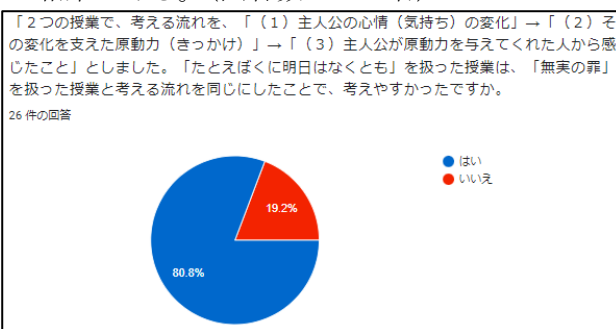
【ユニット第2時板書（11月21日）】

生徒I：自分の人生がこれで良かったと思えるように後悔なく生きることが大切だと思った。また寿命の長い、短いに関係なく自分の一生をかけてなにかしようと思ることが一生懸命生きることにつながると思った。

生徒J：自分がいつ死ぬかわからないからこそこの一瞬一瞬を大切に、自分自身や自分の身の回りの人のことも大切に、長いようで短い人生を最期楽しかったと思えるようにすること。

（3）ユニット第1時・第2時の発問構成の工夫に関するアンケート調査の実施

発問構成を考える際に、ユニット第1時と第2時の授業で扱った教材のタイプが似ていることに注目した。教材のタイプが似ていることで、発問構成を同じにし、生徒の考えやすさを担保できるのではないかと考えた。2つの授業後、生徒に道徳科の授業に関するアンケートを行った。次がその結果である。（回答数：26名）

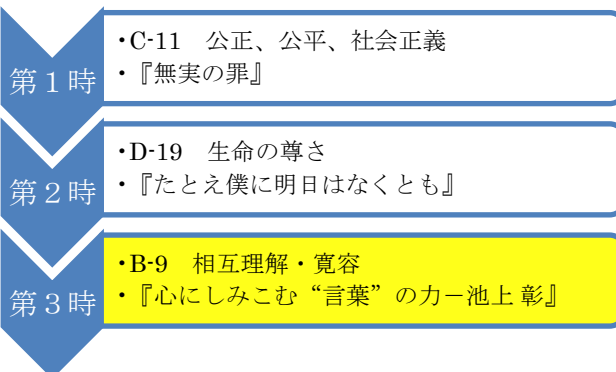


生徒の回答

- ・聞かれることが同じなのでとても考えやすかった。
- ・前回のことを思い出しながら考えられたから。
- ・順序立てて考えることができるから。
- ・授業の流れが同じだったから考えやすかった。

以上の結果から、発問によって、授業で考える流れを同じにすることで、生徒は考えやすくなり、自身の考えを深めることにつながると分かった。

6 関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発に向けた実践②



日 時：令和4年12月 7日（水）5時間目
学 級：第3学年1組（35名）

生徒 N：人の話を聞くことはこれから私達が社会に出るにあたって重要なことであり、成長につながると思った。

生徒 O：「相手の話を聞く」ことは、どんなことだと考えてみると、難しい。自分のためでもあると思う。しかし、「相手も自分も成長する。」という話を友達から聞くと、自分の考えにない意見が出てきて、その話が新しいことにつながることを考えた。

【生徒の振り返りの記述】

IV 研究のまとめ

1 研究の成果

研究テーマ「道徳科の指導方法の工夫に関する研究～関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発を通して～」をめざし授業改善を行うことで、自分自身の授業の在り方を見直すきっかけになった。また、本研究を始める前に、学校祭や校外学習などの行事に道徳教育を関連させる意識を十分にもてていなかったことを述べた。そういった課題を解決するために、内容項目間の関連を図ることや、各教科等や体験活動等との関連的指導を工夫することは、極めて重要であった。このように関連的指導を行うことにより、令和4年度の授業実践による成果として大きく3つに分類し挙げる事ができた。

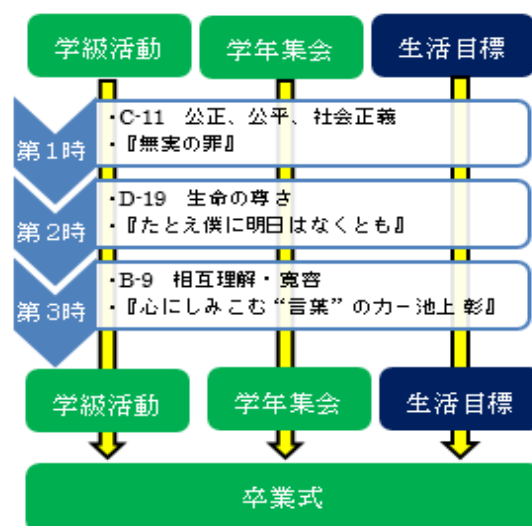
（1）ユニットの成果

ア ユニットの構成の仕方

ユニットの構成の際に、教育計画書にある「道徳教育の全体計画」に立ち返ることで、育てたい生徒たちの心と、各学年の重点目標に沿ったテーマを決めることができた。また、その決まったテーマに関連する内容項目を洗い出し、その項目を扱う授業の教材についても十分に検討することができた。

イ タイムリーなユニットの実施時期の設定

本研究中に3学年に所属していたため、図3のように、卒業式から逆算し、その行事にいたるまでの過程の中に、学級活動、学年集会、生活目標、最後にそれぞれの進路という特別活動を道徳教育と紐付けて指導を行うことで、生徒達の中で、学びの連続性を生みだすことができた。



（図3）『特別活動等と関連させたユニットの図』

ウ 指導の軸があることで、ポイントがぶれない

ユニットを組むことで、「やさしさ」というテーマであれば、教師はやさしさの心を育むための発問や展開を行おうとする意識をもって指導や言葉がけができる。また、授業中、生徒が別の考えの方向に流れてしまったとしても軌道修正を行うことができる。

（2）指導と評価へのアプローチとしての成果

ア 発問構成の工夫における教師の発問数の減少により、生徒の考える時間が増加

ユニットを組む際に、教材のタイプが似ていることで、発問構成を同じにすることができると考え実践したところ、生徒の考えやすさを担保できることにつながった。また、生徒の考える時間が増え、教師の発話数が総じて減ったことにより、考え、議論する時間の確保につながった。

イ ユニットを構成することによって見えてくる 子どもの心の変容と評価へのアプローチ

ユニットの授業が始まる前と、終わった後に、それぞれ、「やさしさ」ということばを聞いて、思いつくことやイメージしたことを Google スライドに書いてもらった。

生徒 P の心の変容（授業が始まる前）

「やさしさ」ということばを聞いて、思いつくことやイメージしたことを書いてみてください。（複数回答可）

- ・思いやり
- ・感謝

生徒 P の心の変容（授業が終わった後）

「やさしさ」ということばを聞いて、思いつくことやイメージしたことを書いてみてください。（複数回答可）

- ・相手を思いやること
- ・感謝を伝えること
- ・大切なこと
- ・一方通行ではないもの
- ・お互いにとって良いこと
- ・厳しくすることも大事
- ・相手の立場に立つこと

はじめは、思いつくことが2つしか書けなかったが、終わった後は、やさしさに対する考え方に広がり生まれた。

生徒 Q の心の変容（ユニットの授業が始まる前）

「やさしさ」ということばを聞いて、思いつくことやイメージしたことを書いてみてください。（複数回答可）

- ・思いやり
- ・気遣い
- ・みんな平等にできる
- ・周りをよく見て気づける

生徒 Q の心の変容（ユニットの授業が終わった後）

「やさしさ」ということばを聞いて、思いつくことやイメージしたことを書いてみてください。（複数回答可）

- ・周りが当たり前だと思っていることを当たり前にできること
- ・周りから言われず、自ら行動し、誰かのためになること
- ・何かした後に、された相手が笑顔になること
- ・何かした後に、された相手が「ありがとう」を返してくれること
- ・笑顔、感謝、当たり前
- ・周りが見れて、気を使うことができる(自分のことじゃないのに人が嫌な思いをしていたら気を遣うこと)

はじめは、4つ程度だった内容が、授業が終わった後には、さらに記入する内容が広がり、考え方にも深まりが増した。考えを深めるための手立てとして、ユニット授業では、Google のスライドを活用し、毎時間、自分の考えを蓄積させた。Google スライドの特性を活かし1時間目、2時間目にストックした内容もすぐに、確認ができることにも着目することができた。また、評価に関しても、以下のように生徒の記述を活用し、指導と評価の一体化を図ることができた。

P.158～161 ③「心にしみこむ“言葉”のカー池上 彰」

授業中のつぶやき（＊：自分の考え ★：友達への考え ◎：その他）
＊相手はどのような気持ちで自分のことをどこまで理解してくれているかを知った上で、自分の気持ちを伝えることが大事だから。一方的に話したら伝わらない
＊人の話を聞くことで、話すことが明確になるし、考えがまとまる
★人の話を聞くことで、相手を理解するから相手への配慮がなくなる

今日の授業で感じたこと、思ったこと、自分の考えが深まったことについて
人の話を聞くことはこれから私達が社会に出るにあたって、重要なことだと思った。また成長にもつながる。今私達が子供のうちに話を聞いておけば将来大人になった時に絶対に生かされると思った。これからも人の話を聞くことを大切にしていきたいと思う。

ユニット授業の過程や成果等の記録を計画的に蓄積したものを評価に活用することで、生徒の学習状況や道徳性に係る成長の様子を把握することができた。また、『学習指導要領解説特別の教科道徳編』（112 頁）に、評価に当たっては、「一面的な見方から多面的・多角的な見方へと発展しているか、道徳的価値の理解を自分自身との関わりの中で深めているかといった点を重視することが重要である。」と述べられていることから裏付けにつながると言える。

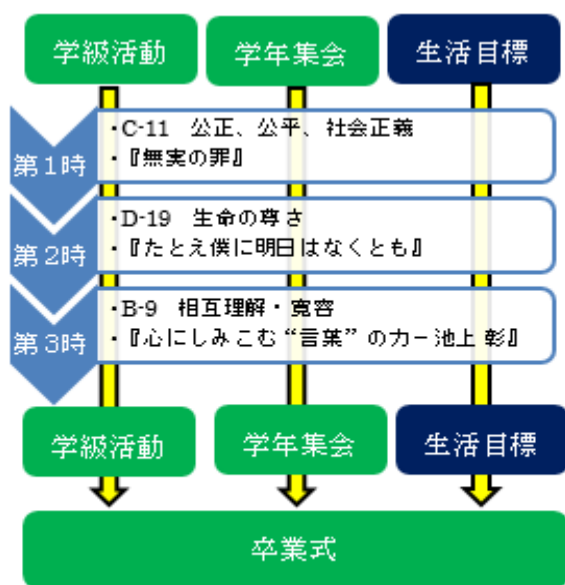
登場人物の気持ちや行動について、自分のことと照らし合わせながら考え、意見を述べていました。

『心にしみこむ“言葉”の力』では、他者の話を聞くことの良さを感じていました。また、「人の話を聞くことはこれから私達が社会に出るにあたって重要なことであり、成長につながると思った。」と考えを綴っていました。【実際の所見の文章を引用】

(3) 道徳教育の「全体計画及びその別葉」「年間指導計画」の見直しとしての成果

ア 短学活との連動

道徳の授業以外でも、朝の会や帰りの会といった日頃の学級活動（短学活）からテーマとして決めた重点項目からもってきた項目の内容を意識し学級活動（短学活）で話をすることができた。



(図3)『特別活動等と関連させたユニットの図』

イ 「全体計画及びその別葉」「年間指導計画」の見直し

ユニットを構成する際に (ア) から (エ) の4つのポイントを意識して、授業計画を作成した。

- (ア) 教育計画書にある全体計画に立ち返る。
- (イ) 自分の所属する学年の重点目標を確認し、その目標の内容項目には何があるのか確認する。
- (ウ) (イ) で挙げた内容項目に合う教材を選定する。
- (エ) 実施時期を検討する。

この4つのポイントは、いずれも、「道徳教育の全体計画及びその別葉」「年間指導計画」の見直しにつながった。



【全体計画・年間指導計画の見直し】

2 今後の課題

今回の研究から得た授業実践を踏まえて、「道徳科の指導方法の工夫に関する研究～関連的指導の工夫（ユニット）を意識した授業構成の開発を通して～」のさらなる実施に向けた課題が次の3点である。

1つ目は、ユニットの構成数とテーマの設定という点である。今回の研究では、「1 1 月」「進路」「中学3年生」「やさしさ」が合致して「ともに高め合う生徒を育てる」というテーマにつながった。

しかし、学校行事や学校、生徒の実態によってユニットの構成数やテーマの設定は異なるため、普遍的なユニットやテーマを提示することが難しい。

2つ目は、先生方それぞれの授業が指導の方法の工夫により、どのように変容するのかという点である。今回の研究でユニットを構成した授業を実践したことで自分自身、補助発問に対する考え方が変わった。例を挙げると、ユニット1時間目と2時間目は生徒の反応をあまり考慮せず、授業の流れのままに補助発問をしていた。しかしユニット3時間目は、生徒の反応を見て、補助発問を選ぶことができた。こういった例のように、ユニットを構成することで今までの指導方法でうまくいかなかったときに、別の方法を考えてみようという先生方が思えるかどうか、いわゆるユニットの必要性を感じるかどうかである。

3つ目は、学校としての道德教育の推進がどのように変容するのかという点である。少しずつではあるが、ユニットを構成することによって、特色ある教育活動である学校行事や道德教育の年間指導計画の工夫や別葉の活用にいかすことができる。そういったものを見直す時間の確保も課題であるといえる。

V おわりに

今回、研究をさせていただいたことにより、私自身の成長につながったと思っている。また、その成長を支えてくれたのは、何よりも令和4年度の3年1組の生徒達である。教師は生徒を育てる立場であるには変わらないかもしれないが、教師もまた生徒たちから教わるものもあることを忘れてはいけなと強く感じる事ができた。

これまで支えてくれた、生徒たちの卒業に携わることができ、当日も素晴らしい卒業式を迎えることができた。中でも、授業で自分の考えを熱弁している生徒が一生懸命に最後の合唱を歌ってい

る姿には目頭が熱くなった。彼らの卒業後に、これまでの道德の授業で感じたこと、気づいたことがいつか芽が出て素敵なお大人になってくれると信じて、これからも目の前の生徒たちと向き合い、共に成長していきたい。

参考文献・参考教材

- ① 文部科学省（平成29年）『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道德編』
- ② 田沼茂紀 東洋館出版社（平成29年）『道德科授業の作り方 パッケージ型ユニットでパフォーマンス評価』
- ③ 令和3年度道德教育実施状況調査（結果概要）